

| 中長期目標 (学校ビジョン) | 保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる | 今年度の 重点目標 | 1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける | | | | |
|--|---|---|--|--|---|----|--|
| 年度当初 | | 評価結果 (3)月 | | | | | |
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状(平成30年度実績等) | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける | 【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。 【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができることにも、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。 | ・84%の生徒が鳥商に入学してよかったと回答。(学校生活アンケート) ・98%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。 ・95%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・93%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・89%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・91%の生徒が安心して安全な学校生活を送れていると回答。(学校生活アンケート) ・75.6%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均 0.55件、一人あたり0.54回。 ・QUアンケートを年間2回(3年生は1回)実施。結果を教育相談員と共有し、気になる生徒については個別に相談しながら対応した。教育相談員との面談件数(生徒、保護者、教員)は延べ87件。 | ・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな挨拶が自らできている。 ・生徒自身が鳥商生としての誇りを持ち、自分たちで学校を活性化する意欲を高める取組を実施する。 ・学校行事、学年行事など学校、学年、クラス単位で取組む活動において、各自が当事者意識をもって参加する意識を高める。 ・学校生活アンケートを継続して実施する。 ・QUアンケートを実施するとともに、日々の観察の中で気になる生徒については教育相談員と連携しながら対応していく。 | ・鳥商での学びが将来の職場での仕事や上級学校での学びにどう結び付き活用できるのかを、体験活動をおして理解し実感できるようにする。 ・日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続。 ・学校外での行動や態度が地域社会からの学校全体への信頼に影響することを強く意識させる。 ・生徒自身が鳥商生としての誇りを持ち、自分たちで学校を活性化する意欲を高める取組を実施する。 ・学校行事、学年行事など学校、学年、クラス単位で取組む活動において、各自が当事者意識をもって参加する意識を高める。 ・学校生活アンケートを継続して実施する。 ・QUアンケートを実施するとともに、日々の観察の中で気になる生徒については教育相談員と連携しながら対応していく。 | ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、92%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきている。また学校外でも身だしなみを整える意識を高める必要がある。 ・96%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・94%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・89%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・93%の生徒が安心して安全な学校生活を送れていると回答。(学校生活アンケート) ・74.9%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均 2.02件、一人あたり0.68回(通院等による遅刻も含む)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生は1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談員、学年間と連携し、生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ180件であった。 | B | ・鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・中・高生と保護者、中学校関係者に鳥商教育についての紹介、説明の機会を増やす。 ・社会生活を送る上で必要な挨拶、マナー、身だしなみ、規律遵守などの指導を継続して行う。自分の姿を客観的に見る力を養う。 ・自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもたらすし、自身の評価にもつながることを意識させる。 ・生徒一人ひとりが学校の活性化にどう貢献できるかを考えさせながら行事等を行う。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・QUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報と共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等にも関係者で丁寧に対応していく。必要に応じて外部機関と連携する。 |
| 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する | 【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。 【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。 | ・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習(10月10日から12日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(12月1日、2日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生徒代表に行かせた。3年生に対しての論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定、進学合格とも100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を多く発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が79人(75人)であり取得率は41.4%(41.6%)、1級未取得者は6人(7人)。()は昨年度。1級7種目取得者2名(3年1名、2年1名)。経産省基本情報技術者試験2名(2年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月6～8日)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月3日関西大学、甲南大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を鳥取大学で開催した。 ・2年生勉強合宿は希望者少数のため実施できなかった。 | ・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身につけている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。 | ・平成31年度キャリア教育全体計画に従って事業、行事を実施する。実施後は振り返りをする。 ・自己表現力を高めるために必要な知識量(語学力、社会性)についての知識などを増やす。 ・3年生への面接指導、小論文指導を継続。 ・検定週間を設定し検定補習を計画的に実施。 ・長期休業期間中の補習(商業科目を中心に)を継続。 ・3年生進学希望者への平日補習(普通教科)を継続。 ・公務員セミナー(全学年対象)、1年生勉強合宿、4年制大学見学会を継続して実施。 ・鳥取大学と連携して4年制大学進学希望者への進学指導を実施する。 | ・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習(10月9日から11日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(11月30日・12月1日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生徒代表に行かせた。3年生に対しての論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が58人(79人)であり取得率は33.5%(41.4%)、1級未取得者は11人(6人)。()は昨年度。1級7種目取得者2名(3年2名)。経産省基本情報技術者試験1名(3年)合格、経産省ITパスポート試験2名(3年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月31日から8月2日まで)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月2日甲南大学、大阪経済大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を開催した。 | B | ・ふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、令和2年度キャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施する。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。 ・就職希望者への社会人による面接指導を継続する。 ・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環境大学)への参加を勧める。 ・1年生4年制大学見学会を継続して実施する。 |
| 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む | 【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。 【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。 【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねることによって、人間的に成長している。 | ・79%の生徒が運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送り、84%が授業に集中できていると回答(学校生活アンケート)している一方で、就寝が午前0時以降の生徒が41%(217人)、睡眠不足を感じる生徒が61.3%(325人)(健康に関するアンケート)もいる。睡眠不足により体の不調を訴える生徒には個別指導を行っているが生徒自身の自己管理能力が不十分。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・健康教育LHRを1回実施。今回は精神面の健康管理について意識を高める機会を設定。 ・体育祭で1年生全員による商高体操を披露。また全校強歩大会を実施。 ・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年113分(143分)、2年112分(162分)、3年106分(156分)と各学年とも大きく減少。()は昨年同様。10月平常時の自宅学習時間は1年75分(49分)、2年30分(44分)、3年53分(48分)であった。クラス間の差が大きい。 ・11月12日・授業改善に関する研修会及び公開授業を実施。現代社会、簿記を授業公開。 ・1月15日にエキスパート教員公開授業(商業)を実施。 ・部活動の加入率は99.6%。いずれの部も中国大会、全国大会を目指して熱心に活動したが、全国大会出場は7にとどまった。 ・帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できない生徒もある。 | ・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送れている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけて体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・商業科目・普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・期間を限定しながら毎日の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・部活動に全生徒が加入し学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。 ・部活動の全員加入を継続。各種大会での上位成績、中国大会、全国大会の出場を目指しながらも人格形成の場であることを第一とする。 ・習字と部活動との両立をはかり、自宅での学習時間を確保しつつ活動する。 | ・学校生活アンケート、健康に関するアンケートを継続して実施する。 ・生活習慣について個別指導を行う。 ・健康教育LHRを2回実施する。 ・商高体操、強歩大会など体育行事を継続して実施する。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない。自己管理、コントロールする力が必須。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・スキんケアに関する健康教育LHRを12月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操と全校強歩大会を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・期間を限定しながら毎日の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。 ・部活動の全員加入を継続。各種大会での上位成績、中国大会、全国大会の出場を目指しながらも人格形成の場であることを第一とする。 ・習字と部活動との両立をはかり、自宅での学習時間を確保しつつ活動する。 | ・毎朝食摂取88%、1日の運動量2時間以上57%、平均睡眠時間6～8時間75%と、生活リズムのよいバランスの取れた健康的な生活ができている。81%の生徒が運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送れていると回答(学校生活アンケート)。86%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答(学校生活アンケート)。 ・学校内のけが、部活動による故障が多く、捻挫・挫傷・打撲が増加している。アキレス腱・関節や体の固さが一要因。体のメンテナンスにかかる時間がないことが原因。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない。自己管理、コントロールする力が必須。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・スキんケアに関する健康教育LHRを12月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操と全校強歩大会を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。 ・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年140分(113分)、2年145分(112分)、3年129分(126分)と各学年とも昨年同時期よりは増加。()は昨年同様。10月平常時の自宅学習時間は1年34.5分(75.1分)、2年40.6分(30.1分)、3年24.6分(52.8分)であった。クラス間の差が大きい。 ・11月5・6日の中国宅見商業教育研究大会で授業公開と研究協議・シンポジウムを実施。 ・2月14日にエキスパート教員公開授業(商業)を実施。 | B | ・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休めて、リセットする方法を体感・会得させる。また、なりたい自分への投資時間を設けるよう働きかける。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのため健康教育LHRを実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。 ・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との連携をはかり、課題を精選しながら学習に取り組ませる。 ・授業方向性に役立つ研修会等への参加を奨励する。 ・教科内での公開授業、相互授業参観を促進し授業方向向上を図る。 ・部活動への全員加入を継続指導する。 ・部活動を奨励し、支援を継続する。 ・鳥取県の部活動方針に沿って休業日を設けるなど活動時間を見直し、学習との両立を進める。 |
| 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける | 【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着など、丁寧な言葉遣いができる。 【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。 【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。 | ・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手を配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会、学校関係者評価委員会を3回実施。産業界、教育界、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・マナーアップさわやか運動をPTAと協力して2回実施。 ・第25回鳥商デパートを開催。全学年生徒が参加し保護者にも協力いただいた。好天もあり売り上げ13,820,964円、来場者数10,336人と過去最高であったが、お客様満足度は94%で昨年度よりやや下がった。2月14日には成果発表会を開き協力企業、学校評議員会、学校関係者評価委員の方々へも公開し、県教委指導担当に講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,030冊。一人あたりにすると5.5冊と昨年度より増加した。授業での利用時間数は313時間(昨年度同期は244時間)となり大幅に増えた。英語授業での利用増による。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との学校間交流が決定。 ・鳥取県バーモント州青少年交流事業に本校1年生が参加。2学期終業式で全校に報告。 ・「世界で学ぶ!鳥取県高校生海外体験事業」に本校1年生が参加。 ・全商英語検定1級取得者は12名(昨年度8名)と増加し合格率も上がったが、2級、3級の合格率が低下。 ・1年生コミュニケーション英語1で習熟度別授業を実施。 | ・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第26回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。 | ・学校生活のあらゆる場面で指導を継続。職員全体の意識を細かなことにも向ける。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手と配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会並びに学校関係者評価委員会を開催し、各方面から意見を求め学校改善に活かす。 ・PTAと協力してのマナーアップ運動等を実施する。 ・集会指導、集合指導を行い時間前の集合を習慣づける。 ・授業開始前の整勢作りを徹底する。 ・新着図書への紹介を継続し、面接指導、小論文指導、授業での書籍活用を促進する。 ・バーモント州エッセックス高校との学校間交流について各所に協力を仰ぎながら計画を具体化する。 ・海外からの訪問団受け入れ、海外派遣を積極的に推進。 ・全商英語検定1級、実用英語検定2級以上の受検を勧める。 ・習熟度別授業を活用して基礎知識の定着のための学習と発展的な学習を平行して行う。 | ・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手と配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会・学校関係者評価委員会を3回実施。産業界、教育界、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・マナーアップさわやか運動をPTAと協力して2回実施。 ・第26回鳥商デパートを開催。全学年生徒が参加し保護者にも協力いただいた。売り上げ13,439,466円、来場者数9,576人と過去最高を記録した昨年にはわずかに及ばなかったものの、お客様満足度は96.3%と昨年より2.6ポイント上昇した。2月13日には成果発表会を開き協力企業、学校評議員会、学校関係者評価委員の方々にも参観いただき、講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,690冊。一人あたりにすると6.9冊と昨年度より増加した。授業での利用時間数は345時間(昨年度同期は312時間)となり大幅に増えた。教科、分掌と連携した読書指導を実施し、全国高校生ビブリオバトル大会に県代表として出場するなどの成果を挙げた。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との学校間交流が決定。 ・鳥取県バーモント州青少年交流事業に本校2年生が参加。2学期終業式で全校に報告。 ・全商英語検定1級取得者は16名(昨年度12名)と増加し合格率も上がった。2級、3級の合格率は95%と昨年度(92%)よりは上昇した。 ・1年生コミュニケーション英語1で習熟度別授業を実施。 | B | ・定期的な服装頭髪指導のみならず、身だしなみ、頭髪、挨拶などマナー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・コミュニケーションスキルの導入により学校運営協議会を開催し、多様な立場の意見や提言を聴取する。 ・年度初めに集合指導を行い、生徒に連やかな全体集合を実践させる。 ・今後の学級減を念頭におきつつふるさとキャリア教育の視点を踏まえ、1年生ビジネス体験実習、2年研修旅行、3年鳥商デパート運営などの学びの実践の場としての諸行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理等)を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携したおすすめ本のポップ作り・新聞記事を活用した授業などを通して読書や時事問題への関心を高める。 ・アメリカ合衆国バーモント州エッセックス高校との交流の具体化に向けた協議を進めるとともに、交流の核となる生徒の組織作りを進める。 ・4月の鳥取県バーモント州青少年交流事業訪問団の来県は中止となったが、秋に派遣する訪問団の編成を進める。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・全商英語検定の1級受検、実用英語検定の準2級以上の受検を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生コミュニケーション英語1での英語習熟度別授業を継続する。 |
| 5. 業務改善の取組 | ○校務分掌・任務分担の見直し ○長時間勤務者の解消 | ○複数の分掌が関わる案件についての連携がとりづらく、勤務時間の長時間化につながっている。 ○ネットワーク上のフォルダが整理されておらず、業務の効率化が図られていない。 ○休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。 | ○月当たりの時間外業務を平成30年度比で10%削減。 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ○部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の解消 | ○夏季休業中の緩やかな閉庁日の設定。 ○校務分掌の合併、専任者の増員による業務の削減。業務アシスタントの導入と活用。 ○校内掲示板の活用とフォルダの階層化の推進。 ○部活動方針の徹底と月別活動計画及び実績の提出の徹底。 | ・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得が促進された。 ・業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間が増えた。 ・ノートの校内掲示板の活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。 ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。 | A | ・業務アシスタントの配置は継続されないため、来年度の当該分掌の人員配置や任務分担について配慮が必要となる。分掌内の任務分担の更なる見直しを進める。 ・校内掲示板の活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、各部の事情に応じた部活動の休養日の設定の仕方について検討を進める。 |

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:要改善 D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]